

リメイク用の布地を作る

①着物の選び方と確認

どんな着物でも生かし方次第ですてきな洋服に生まれ変わります。錦紗や縮緬、綸子などの晴れ着、紬、木綿、麻などのふだん着、帯や下着、襦袢や裏地、前掛け、さらには半纏や旗、軍笥の油単に至るまで、およそ布地であればすべて着物リフォームの素材として考えられます。ただ古いものでいたみが激しいものや、色があまりに褪せてしまったものは、あきらめましょう。せっかく作っても、すぐ破れて結局着られないなどと

いったことになりません。穴が開いたり汚れないかなどを、よくチェックしましょう。布自体が弱っていないかどうかよく吟味してください。

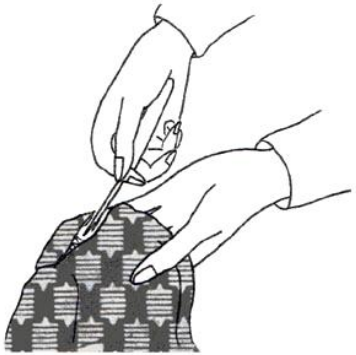


布をたて、よこに引っ張ってみて、いたみ具合を見ます。

結局着られないなどと

②着物をほどく

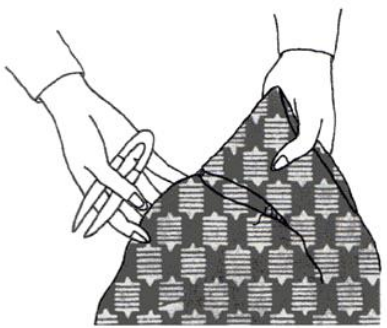
できるだけ布地を傷めないよう丁寧に扱って。無理してを引っ張らず、糸きりばさみやリッパーで縫い目を切って行きます。



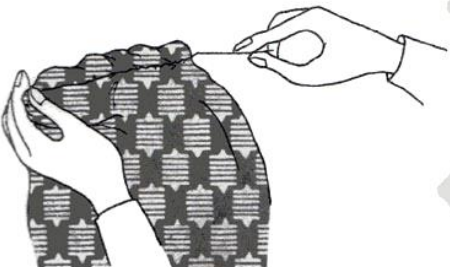
最初に衿と共衿をはずし、縫われている反対の方向からはさみを入れていきます。



衿の着物は、裾から始めて脇、おくみ、袖の順に表地と裏地とをはずしていきます。



衿や袖の最後の止めの部分は念入りに縫ってあるので、その手前からほどくようにします。



止めの部分以外はほとんどが糸を引っ張ればすっと面白いうに抜けていきます。

③ほどいた着物を洗濯する

水洗いで

ほとんどのものは水洗いでいけます。かけ衿をはずして、中性洗剤で試し洗いをします。

色落ちしないか、破けないかなどを見ます。大丈夫だったらほどいて手洗いまたは洗濯機のソフトバージョンで洗います。水洗いしてダメなものは、リフォームしても無駄と置いていいでしょう。縮んでも縮んだままの寸法で作ればよいので、縮みをそんなに恐れることはありません。

ドライで

縮緬や錦紗などで振袖、留袖などの晴れ着、刺繍のあるものなどは、ほどいてドライにするのが難しいです。洋服のドライのやり方で大丈夫です。洗い張りなどにしたら金額がかさむので、クリーニング屋さんで断っておきましょう。

④アイロンのかけ方

アイロンは生乾きのときにかけるのがコツです。完全に乾いてしまうと細かいしわを取るのに苦労します。薄手や絹のものはやはり、アイロンネットやあて布をしてかけた方が無難です。縮んだ布を無理にのばすことはせず、成り行きに任せます。